



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

「**新型**

新型コロナウイルス禍 の中でも」



日本基督教教団

香櫨園教会 牧師

森 哲

新型コロナウイルス禍も一年を超えましたが、状況は好転していません。神様の憐みが世界に広がるようにお祈りいたします。この一年の香櫨園教会について報告させていただきます。それぞれの教会が様々に新型コロナウイルス対策をされていると思いますが、そんな中の一つと考えていただく参考に、またご批判ください。

二〇二〇年三月の役員会で、新型コロナウイルス対策を話し合い、緊急事態になった場合は礼拝を閉じて無会衆礼拝とする。礼拝はスマホアプリの Line 電話で配信することを決めました。香櫨園教会では、数年前から連絡や教員交流用にグループ Line を作っており、多くの教員がこれに参加していました。また三月に入院された方に Line 電話で礼拝を配信していたことも、Line 電話配信を後押ししてくれました。

四月に入り緊急事態宣言が出され、十日の受難日礼拝から無会衆礼拝・Line 電話による配信が始まり、五月十七日まで無会衆礼拝でした。週報は日曜日の朝に Line に上げ、各自十時三十分からの礼拝に備えました。Line 電話には参加者のアイコンが出るので、誰が参加しているのかが判るのは、礼拝堂で一人司会・説教をする私にとっては本心に心強いものでした。無会衆礼拝の五月十日には礼拝後に参加者からの報告を聞く機会を設けましたが、離れていても一緒に礼拝を守ることができていることを確認でき、互いの様子を聞いて喜ぶことができました。

ここまでは喜びの報告ですが、ここからは教会論的な議論を呼ぶかもしれない報告となります。それは「聖餐式」をどうするのかということでした。私の判断で、互いに離れていても Line 電話によって繋がり、日曜日十時三十分からの礼拝が守られていると理解して聖餐式を行うことにしました。事前に聖餐式に用いる「食べ物」と「飲み物」を用意してくださいと案内をしました。そして聖餐式の式文は、「このパンとぶどう酒を聖別してください。」を「それぞれの前の食べ物と飲み物を聖別してください。」と読み替えて行いました。礼拝が守れるようになった六月の役員会で、この件の総括を出しました。総括では、恵まれて聖餐式を守れたことを感謝するが、もし次回このような事態の時には、世界と苦しみと共にする意味で「配餐」を行わないものとなりました。その総括は今年二月と三月に現実となり、集められて礼拝を守りながらも配餐を行わない聖餐式を守りました。

コロナ禍の中でも工夫により、高齢者や遠方の方・入院中の方など、教会に来られない方々も礼拝参加できるようになりました。また聖餐式で「食べ物」「飲み物」としたことにより、病気等により嚥下が難しい方々が各自用意したもので聖餐式にあずかれるようにもなりました。新しい道が開かれたようです。

全世界が新型コロナウイルス禍にあえぐ中にも、神様の恵みを受けて礼拝と聖餐式を守ることができたことを感謝して報告させていただきます。

霊 想

「ア・シュラムのとき」

列王記上一九：一〜一八



日本基督教教団

更生教会

牧師 山口紀子

新型コロナウイルス感染症拡大から約1年半、闘いは長期化しています。先日インターネット上に「心のSOSに気をつけて」という心療内科医の言葉を見つけました。例えば、企業の現場では仕事量が明らかに増えているのに先の見通しは全く立たないという状況で忙しさが続く。その環境に頑張つて適応していることで疲弊する。そうした過剰反応が続くと、いきなり燃え尽きたように業務ができなくなってしまうそうです。

一方で、業種によっては仕事や収入が激減。経済的な打撃が大きい場合は自己肯定感を喪失して、鬱状態になるリスクがあると指摘しています。居場所を失うこと、また社会との接点、家族との接点が極端に減ったことで、見捨てられてしまったような孤独を感じておられる方々もおられます。

こうした状況に直面するのは、コロナ禍の私たちが初めてではありません。歴史をふり返れば多くの先達も、状況こそ違えども燃え尽き、悲観し、孤独を経験しています。それは信仰者も同じです。その一人が預言者のエリヤです。旧約聖書において預言者の代表で

あるエリヤも、私たちと同じでした。

エリヤはアハブ王に対して干ばつを預言したことで命を狙われ、身を隠します。この時はケリト川でカラスに、サレプタではやもめに養われます。これは主なる神の言葉を信頼する訓練でした。またバアルの預言者450人対1人という対決の備えでもあり、この劇的な対決の大勝利を通してエリヤはイスラエルの神こそ真の神であることをイスラエルの民に示しました。そんな大預言者エリヤが、王妃イゼベルに脅され一転恐れに取りつかれてしまうのです。

人には様々な表情があります。困難に対して勇敢に立ち向かえる時もある。意気消沈し、何もかもが嫌になる時もある。信仰が逆に、人を苦しめる時もあります。立ち向かえない自分を、不信仰ではないかと責めてしまうのです。

しかし、私たちの神は、勇敢に立ち向かう者の神であると同時に、弱く、くずおれている者の神、心折れた者の神です。いまや燃え尽き、悲観し、死を願うエリヤ。神はそんな彼を叱責したり、励ましたりはしません。ただ「起きて食べなさい」とパンと水を用意して下さるのです。まず食べて眠る。今の私に何が一番必要か

を神は私たち以上によくご存じです。眠り、食べ、眠り、食べ、力づけられたエリヤは神の山ホレブに到着します。これが彼にとって静まりの期間となり御声を聴く備えとなりました。

ア・シュラム。「ア」とは「全くない」、逆に「非常に〜がある」。「シュラム」とは「労働」ということは、その意味は「勤労の生活から全く退き、非常に霊的な労働をすること」。心のSOSに気づいた時は、アシュラムに招かれている時ではないでしょうか。意識して退き体を休めます。そして心を神に向けます。御言葉を思いめぐらします。心にかかる御言葉を、時には聞き返し、時には反論する。祈りつつ、また御言葉に聴く。

この「神の山」で主は問われます。「あなたは何をしているのか」。エリヤは思わず本音を吐き出します。問題の本質は、外ではなく内にあったのです。神への不信、不満です。私たちもそんな風に思うことはないでしょうか。こんな祈っているのにどうして答えてくださらないのですか？これだけ頑張っているのに、どうして人生変わらないのですか？

主はそんなエリヤに、そして私たちに言われます。「そこを出て…主の前に立ちなさい」。彼は洞穴にいます。狭い自分の世界、その視界

思い悩むな



日本基督教教団
更生教会 信徒
林 朱実

コロナ禍での第五二回城北アシユラムは、例年とは異なり、リモートを活用した開催となりました。密を避けるために会場を三つに分散し、それぞれの教会をネッ

から見えるのは世界のほんの一部の景色なのに、それが全てだと思ひ込み、自己憐憫に陥っているのです。しかしまだ彼はそこから出ることができませんでした。主はエリヤの前を通り過ぎて行かれます。強風が吹き、山を裂き、岩を砕く。しかし主は嵐の中におられません。その後の地震にも、火の中にもおられませんでした。強風、地震、火。それらはこれまでエリヤが主を知る手段でした。バアルの預言者との戦いでは火が下ったのです。呼ばばわかりやすい力を持って、神は御自身を現して下さった。しかし今はそうしたしるしの中に主はおられない。しるしではなく、言葉へ。この方は、御言葉をもって語りかける神なのです。静かにささやく御声を聞いて、人は洞穴を出て、主の前に立つことができるのです。これが「非常に霊的な労働」です。それを繰り返す中で、私たちは神を知り、神との交わりは深められていくのです。

トワークでつなげ、午後からの半日開催でした。しかし、緊急事態宣言下の中にあっても中止されることなく、継続して開催できたことに感謝いたします。また、開催には山崎製パンの方が、何日も前から三つの教会（池の上教会、新宿西教会、更生教会）をまわり、機材の準備をしてくださいました。飯島兄弟のご尽力にも感謝します。

今年の主題は、ヨブ記から「私を贖う方は生きておられる」でした。何度か参加している私にとってアシユラムとは、日常の慌ただしい生活から一時離れ、一日聖書と向かいあい、そこで様々な方々の祈りの課題に触れながら、神のみこころに耳を傾ける大切な機会です。慌ただしく目の前のことをただこなすだけの日々の中で、時につぶやいてしまうこともありますが、「神の国と神の義とを求めなさい」のみことばをいただき、日々の糧も仕事も出会わされた人々も、すべて主から与えられたものであることに改めて感謝をいたしました。世界が未曾有のできごとの中にある今こそ、主は生きておられることを伝えていきたいと思われされました。会場からの帰路、カナの結婚式での場面で、イエスのことばにただ従い、かめに水をいっばいに入れた給仕の姿勢に習うものでありたいと、心から願いました。

御言葉への静聴と立証



池の上キリスト
教会会員
石井 寛

五十年前に教会創立者、山根可弑師から受洗の恵みをいただきました。当時先生は青年たちを多くの集會に導いてくださり、その中の一つがアシユラムでした。初期の関東アシユラムには多くの人々が参加し、アシユラムの五大原則、すなわちキリストへの明け渡しと服従。御言葉への静聴と立証、聖霊の導きと充満、教会への奉仕と伝道、神の国の体験と献身、これらを通して体験的アシユラムを実践していました。

山根師はアシユラム運動には熱心に取り組み、時には啓蒙のために各地に出かけられ、また私たちを引き連れいくつかの教会を訪問しました。毎日いただいた聖書の言葉を「静聴ノート」に記し、いつもその恵みをお話しされてきました。

私は先生からその恵みをいただき、日々教会の聖書通読箇所からノートに記しています。すでに十三年になつています。

音楽伝道への参加に関しても御言葉が罪を示し、赦してくださいました後に長い期間そこで働くことができました。また、その後の教会献身についても



ローマ書六章の御言葉が確信を与えてくださいました。

アシラム連盟、関東アシラムの事務局として長く奉仕してきましたが、持病や体力的限界を感じ、教会奉仕者として辞する決意をしました。幸いアシラム事務局の働き、教団教区の奉仕についてはすぐに継承する方が与えられました。しかし、一番中心だった教会奉仕の働きについては退職する三週間前まで決まっておらず、しかし私には創世記二二章・アブラハムがイサクを捧げる信仰「主の山に備えあり」の御言葉を与えられており、平安がありました。そしてその通りになり、今は九州で生活し、アシラム誌の編集をさせていただき、コロナ禍が続く中、礼拝も朝祷告も、祈禱会も、いくつかの会議もネットで行っています。

函館栄光キリスト教会報告 牧師 佐々木雄次

私どもの教会では、いつも十月の「体育の日」に地域の他教会にも声をかけ、ミニ・アシラムを開いてきましたが、二〇二〇年は、コロナウイルスの感染予防のため、十一月三日、教会員一四名と、丁度ど来函されていた湯本春実師を加えた一五名で、半日のこぢんまりしたミニ・アシラムを開催しました。主題は「主よ、わたしたちにも祈りを教えてください」(ルカ一・一)、プログラムは開心の時、静聴と恵みの分かち合い、祈りの細胞、充満の時でした。気心の知れた者ばかりだったこともあり、リ

ラックスした、とても楽しい交わりになりました。今年是他教会の方にもお越しいただきたいと願っておりますが、コロナウイルスの感染がなかなか収まらないため、現段階では、どうしたらよいか決めかねています。ただ、開催日時だけは十月十一日を予定しています。

事務局からのご連絡(天門教会)

いつの間にか青葉が生い茂る初夏となりました。この変わりゆく季節の中で、「神とイエス・キリストは昨日も今日も永遠に変わることがない」と御言葉がいます。それゆえ、五旬節の働きはその当時だけでなく、現在も続けて変わることなく、現れます。「聖霊の臨在、教え、働きは永遠に変わることがない。」と証しする聖書を信じる幸せを覚えます。皆様においては如何お過ごしでしょうか。アシラム誌の背後のお祈りともに尊いおささげを各地より賜っております。心より御礼を申し上げます。

さて、大阪、東京の感染者が再び千人を超え、死者も危機的水準を迎えつつある日本のコロナ禍は一朝一夕では解決できない深い病巣が潜んでいます。今まさに命に関わる事態が起きています。大変な打撃を受けておられる教会もあります。そこで、新年度を迎え新しい道が開かれた教会も多々あります。試行錯誤をしながら動画配信で、各家庭を礼拝の場として同時に賛美と感謝をもって、心を合わせてZOOM配信、オンライン礼拝を

ささげることが可能として取り組んでおられます。全ての教会と皆様に新しい環境の祝福をお祈りいたします。

各地のミニアシラムは来年に延期。

関東アシラムの予定

九月二〇日(月)〜二三日(水)

会場 山崎製パン箱根山荘

助言者 島隆三師

(七月八日 関東アシラム委員会にて決行可否判断)

献金のお願い

アシラム誌204号紙面に振り込み用紙を添付させていただきました。

読者の皆さまのお祈りと暖かいご支援のお献げもの宜しくお願ひ申し上げます。

振替口座

東京 00100-1-4558

編集後記

長い間アシラム運動のため、お働きました。きました単立裾野坂の上教会牧師、佐野勇松先生が5月14日92歳のご生涯を終えご召天されました。救世軍士官を経て、また60歳で自宅を教会にして牧会。そこでアシラムに加わり、晩年は横浜岡村教会に属し、最期は浜松で暮らしておりました。

先生のお働きに感謝するとともに残された淳子姉のために祈りいたします。